

道後温泉、 日本最古の湯。

伊予の湯桁の数え詠

源氏物語 空蟬の巻

空「待ち給えや。其處はちにこそあらめ、このわたりの劫をこそ」
など言えど、
軒「いで、この度は負けにけり、隅の所々、いで〜」
とおよびをかかめて、
「十、二十、三十、四十」
などがぞふるさま、伊予の湯桁もたどしかるまじう見ゆ。

源氏物語 夕顔の巻

國の物語など申すに、湯桁はいくつと問はまほしくおぼせど、
あいなくまはやくて、御心のうちにおぼし出づることも
さまざまなり。

任國の物語など申すに、「湯桁はいくつと問はまほしくおぼせど、あいなくまはやくて、御心のうちにおぼし出づることもさまざまなり。」



大和絵屏風六曲一双 松山免月庵文化歴史館所蔵

日本最古の温泉といわれる伝承をもつ、道後温泉の歴史構造について。

嘗て湯郡、熟田津と称された伊予国道後。この地で伝承された様々な歴史は逸文及び江戸、明治等の金石文や文献にも表記されている通り凡そ二千年近い歴史伝承を有している。中でも逸文とはいえ、伊豫国風土記に記されていたとされる皇紀792年・西暦132年の景行天皇、八阪入姫行幸の行は日本最古の温泉を語る上で重要な記載であり、これについては太平洋戦争後その存在自体を否定されつつも古人のオマージュとして今日まで伝承されている。

大和王権による九州平定という特殊な歴史構造の中で道後温泉が果たした齋戒沐浴や再生儀礼という役割が「日本最古の温泉」という歴史伝承へ誘ったのだらうと鑑みる。

そして江戸幕府から明治政府という大きな政治的求心力の変遷によって新たに創られた伝承も否定する事はできないが、道後温泉については弥生時代からその行幸・行啓伝承が存在していた事は典拠を持って知ることができる。

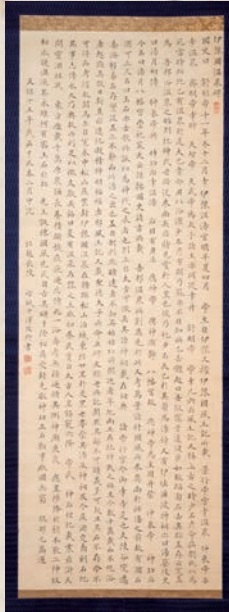
大和王権時代から大和朝廷時代にかけて九州との折衝の拠点として伊予道後に天皇行幸の記あり。皇紀1256年には推古天皇摂政・聖徳太子葛城臣行啓、湯岡に碑を建てたとする記録も伊予風土記に記されている。後、日本書紀では舒明天皇、斎明天皇、伊予熟田津石湯の行宮に行幸の記載あり。さらに平安朝においては宮中で伊予の湯桁と称する木板状のもの

が数え歌として流行していた事が紫式部日記及び源氏物語の夕顔、空蟬の巻で記されている。(源氏物語・吉澤義則閣)

尚、逸文伊予風土記の存在においては江戸時代後期に半井梧庵が編集した愛媛面影や伊予史談第八十號で記されている。

松山免月庵文化歴史館 館長 小椋浩介

【小椋浩介プロフィール】松山免月庵文化歴史館館長。日本の美術歴史家。過去蒐集した松山の美術品や希少な資料の実物を、「本来、本物、本質」をテーマに展示公開した「松山免月庵松山文化歴史館」を旧松山藩士族末裔の住宅に設けている。



伊豫国温泉碑文
天保十五年歲在甲辰春二月中
北越長陵 雪城中澤俊卿書



皆様のご来湯をお待ちしております。【道後温泉旅館協同組合】
四国・松山 <https://www.dogo.or.jp/pc/>

4月 道後温泉本館
改築130周年。
初代道後湯之町の町長を務めた伊佐庭知矢氏が現在の道後温泉本館を造営して、今年4月10日で130年を迎えます。

7月 全館営業、始まる。
現在の道後温泉本館を後世に伝えていくための保存修理工事が、5年余りの歳月をかけて完了。今年7月11日から全館の営業を始めます。

6月18日(火)から7月10日(水)まで開館準備で休館します。